

校歌

一、 蒼溟遠き波の涯

たてり大和の秋津洲

そのうるはしき名を負へる

二、 時の流れは強うして

自治を命の若人は

山河秀でし此の郷に

三、 暁こめて鳴り出でし

世の先駆者の名に恥ぢず

移らふ星を数べて

黒潮たぎる絶東に

栄光の歴史は三千年

蜻蛉男児に栄えあれ

この世の旅は長けれど

強き「力」に生くるかな

礎 固し我が母校

時代の鐘を身にしめて

心を磨き身を鍛へ

守るも久し深志城

祝記念祭歌

一、 めぐりきぬ今年の秋の記念祭

うれひを友とわかつべく

命の歌を歌はばや

悲しみ多き若き日の

この丘の上にうちつどひ

二、 逝きにしし三年の夢をしのびつつ

あかね色なす星屑は

遠き思ひを語るかな

夕べの丘に迷う時

われらの上にまたたきて

三、 とこしへにかわらぬ理想胸に秘め

友と真理を語る時

涙にほほをぬらすかな

くれゆく空を仰ぎつつ

若き血潮は高鳴りて

四、 いざ友よこのひとときをかぎりとして わかき命のつきぬまに

千草乱るる丘の上

トンボの祭り祝はばや

今宵の幸を歌はばや